

これから伸びる 東京のカイシャ 2021

日刊工業新聞社：編

新型コロナにも負けない有力企業

日刊工業新聞社

▲ オーエスエレクトロニクス株式会社

顧客に寄り添う柔軟な対応力が強みの電子部品商社 ——“有言行動”+Sで顧客の信頼を得る

ここに
注目!

+ S（プラスエス）活動による柔軟な対応力
“有言行動”によるクイックレスポンスの実現

5G、IoT、ビッグデータ、AI分析、VRなど、最新のテクノロジーが次々と生まれている。私たちの生活には、パソコンやタブレットPC、スマートフォン、デジタルカメラなどのIT製品が欠かせないものになっており、それらの製品を支える半導体をはじめとした電子部品はますます重要性を増している。半導体、電子デバイス、電池、電源、放熱器など幅広い電子部品を取り扱う電子部品商社のオーエスエレクトロニクス。同社は顧客に寄り添う柔軟な対応

力で顧客のニーズを見極め、要望を満たすサービスを提供することで厚い信頼を寄せられている。

プラスS活動で仕入先・得意先の利益に貢献する

急速なテクノロジーの進化によって、エレクトロニクス業界には急激な変化が起きている。製品に使用される電子部品の移り変わりは激しく、日々刻々と変化する市場においては、品質の追求はもちろん、提供するスピードや最適化を図るための技術力も大いに

問われる時代になっている。そうした状況の中で、常に時代を見据え、顧客に正確な市場情報や業界情報を発信し、サプライヤとユーザーの間に信頼関係を確立しているのがオーエスエレクトロニクスだ。顧客に寄り添う柔軟な対応により、業界でも独自性のあるエレクトロニクス技術商社というポジションを確立している。

同社の強みは「電子部品商社としてのサービス力にある」と東海林尊信社長は語る。製造業では製品の品質管理の指標として「QCDS」を重視することが多い。品質（Quality）、価格（Cost）、納期や入手性（Delivery）、対応やサポート（Service）の頭文字をとったものだ。同社では「QCDSに加えてサービスを2倍と考え、『+S（プラスエス）活動』という行動指針を実施している」と東海林社長は明かす。一般的に半導体などの電子部品は製造に長い時間を要するため、発注から納品まで数カ月を費やす製品が多い。その一方で電子部品のユーザーは時代のニーズに応じるためにいま直ぐにでも部品が欲しい。それゆえ、人気の電子部品はユーザー間での取り合いになることもある。そうした状況を踏まえて同社では、ユーザーに先駆けて市場のニーズを見極め、同社が電子部品の先行発注を行い、いち早くユーザーの要望を満たすデリバリー（納期や入手性）の実現をサービスとして提供している。そのため、同社が商社として扱う電子部品ではデリバリーが守られ、



グローバル化によるワンストップサポート

取り合いも起きにくい。その結果として、サプライヤとユーザーの間に信頼関係が築けるのだ。「当社がパートナーとして間に入り、ユーザーの手の届かない部分をフォローすることで、当社だけではなくユーザー、サプライヤの利益に貢献できることになる」（東海林社長）。

“有言行動”でクイックレスポンスを実現

デリバリーを守るという顧客に寄り添ったサービスを実現する「+S活動」の他にも、同社ならではの行動指針は多い。その一つ

が「有言行動」だ。「有言実行でも不言実行でもなく、“有言行動”」と語る東海林社長。同社では社員たちがみな、自分は「こういう事をやる」という行動計画を事前に宣言して、実際に行動するという。「組織で力を出すためにはPDCA（Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）の頭文字）のP（計画）を共有する必要がある。行動計画を事前に宣言することでチームが各自のプランを共有できる」（東海林社長）。

実際、この有言行動の効果は大きい。宣言して動くことで、各自

の動きをチームで把握することができ、お互いのフォローが可能となる。発注や納期の管理も共有しやすくなり、結果的に顧客へのクイックレスポンスにつながる。「電子部品の業界ではスピードが強みになる。他社よりも早く見積もりを提出できたため、受注が成立したケースも多い」（東海林社長）。独自の行動指針を武器に、顧客に寄り添った柔軟なサービスを展開する同社。顧客の手の届かない部分を的確にフォローするその優れたサービス力、それによって同社はユーザーとサプライヤの両方から信頼を勝ち得ている。



サプライヤー新工場にて

ONE STOP SERVICE

柔軟な対応力 / 少ロット対応 / クイックレスポンス



半導体



電子デバイス



電池



ポリスイッチ



電源



放熱器



取扱製品群

「わが社を語る」

代表取締役 社長執行役員
東海林 尊信氏



「独自性のあるエレクトロニクス技術商社」であり続けたい

当社は“有言行動”を信条とする会社です。単なる有言実行ではなく、行動計画を事前に宣言して実際に行動することです。言葉にすることで、やるべきことを明確にし、決意を固め、それを行動に移す。だからこそ、お客様は我々の提案を信頼することができ、我々も常に約束を果たすべく行動できるものと信じています。今日、ビジネス環境は急激に変化しており、エレクトロニクス業界も急速に変化しています。当社は常に時代を見据えて、お客様に正確な市場情報や業界情報を発信し、サプライヤとユーザーの間に信頼関係を確立する「独自性のあるエレクトロニクス技術商社」であり続けたいと考えています。

トロニクス業界も急速に変化しています。当社は常に時代を見据えて、お客様に正確な市場情報や業界情報を発信し、サプライヤとユーザーの間に信頼関係を確立する「独自性のあるエレクトロニクス技術商社」であり続けたいと考えています。

会社 DATA

所在地：東京都千代田区外神田3-16-8 秋葉原三和東洋ビル5F
創業・設立：1963年4月設立
代表者：東海林 尊信
資本金：9,900万円
従業員数：202名
事業内容：半導体・電池・電源・SSD・産業用カメラなど電子部品商社
U R L : <https://www.oselec.jp/>

